

# やまがた認知症カフェ通信 2020 3月号

令和2年3月13日発行 発行元／山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ

## どうしたら満足のか治療が受けられる？

～カフェでのおしゃべりを通して「私は何を望んでいるのか」、再確認する機会を設けてみませんか？～

介護職の方やご家族の方から時折話題として出るのが、病院内での意思決定のこと。認知症だけでなく身体的な疾患で診療を受ける際など、本人が判断できる場合はいいのですが、そうでない場合、本人の意思を最大限尊重したいと思っても、判断が難しいことがあります。そうした状況は本人にとっても本意ではないはず。また、判断できる状態であっても、自分のこととはいえ、突然どうしたいか聞かれてすぐにはっきりと答えられるという人は意外と少ないのではないのでしょうか。1人きりで考えていても、考えが堂々巡りしてしまうということも多いのではないかと思います。だからこそ、そんな時こそカフェの存在が役に立つのではないかと思います。



同じように悩む者同士で気兼ねなくおしゃべりすることによって、自分の気持ちが整理されたり、思いつかなかった選択肢が得られたり…。日頃のカフェ運営の中でこれまでもやってきていることかもしれませんが、来年度は改めてそういう機会を設けてみるのもいいのではないのでしょうか。さくらんぼカフェでは12月に『訪問診療クリニックやまがた』の奥山先生をお呼びして、「人生会議はなぜ必要か？」とのテーマで講話をしていただきましたが、それぞれのカフェでも地域のかかりつけ医の先生と利用者が会する座談会などが開けるといいかもしれません。



また、県では医療関係者（医師、看護師、歯科医師、薬剤師）向けに、認知症対応力向上研修を実施しています。以前に比べ専門科以外の方の認知症に対する理解も進み、認知症の方にとって治療を受けやすい（相談しやすい）体制が整ってきています。

あと大事なのは、自分の意思を再確認したら、家族や身近な人と共有しておくこと。「なかなか家族とそういう話をする機会がない…」で終わらせずに、どう話を切り出したらいいか、どう伝えたらいいか、もしくはどう聞き出したらいいかなど、そうした悩みもカフェで相談できるといいですね。

## さくらんぼカフェより

さくらんぼカフェから旬の話題をお届けします！

### ～さくらんぼカフェ 5年間の活動をとおして見えてきた あらゆる人の心のよりどころ「認知症カフェ」～

さくらんぼカフェは平成27年7月、山形県における認知症施策のひとつとして、認知症の人と家族が安心できる居場所「認知症カフェ」の普及を目的としてオープンしました。全国で県が運営するのは初めてとあり、当初は県外からの視察やこれから「カフェ」を始めたいと考えている方々の来所が多い年度でした。年々利用者層に変化も出てきて、近年はようやく目指していた“相談者や介護家族、介護者に限らず多様な立場の方に利用していただける場”となっており、多くの方が誰でも身近で気軽に足が向く「居場所」を望んでいることを実感した5年目です。この間、多くのエピソードもありますが、カフェを利用される方々との交流は、結果的には、利用者・運営者共に自然に多くを学び合っている姿を感じます。来所者の相談では、運営者やスタッフ自身が相談等の中から地域の社会資源を広く知る機会にも恵まれているようです。

カフェは必ずしも目的があって来所とは限らないので そのことで当初、対応に戸惑いなどもありましたが慣れてきました。リピーターの方の経過を振り返ると、ささやかでもよい変化を感じる事が多く、私たちスタッフにとっても学びのひとつとなっています。嬉しいことのひとつに、時折そとカフェに季節の飾りをして下さる方もいます。対応に失敗もありますが、このような多くの方々との交流で勇気を得て、さくらんぼカフェは、今日も皆さんをお迎えしています。



## ～ 笑顔と癒しの空間 ～ むらカフェ

戸沢村 地域包括センター管理者

**村上 万里子** (むらかみ まりこ) ー戸沢村ー

戸沢村では、「～笑顔と癒しの空間～ むらカフェ」として認知症カフェを開催しています。村内の介護事業所の管理者に、認知症地域支援推進員研修を受講してもらい、同じく推進員の包括支援センター保健師、診療所の看護師とともにカフェの内容等を毎回打合せ、年間計画を立て連携して実施しています。今年度は、①お茶屋から講師を招きお茶を点てる「お茶の講座」②アロマオイルを使用したハンドマッサージ等を行う「アロマテラピー」③ゲームで楽しみながら行う「認知症予防の脳トレーニング」④残された人達へ自分の希望や伝えたいことを記しておく、人生の記録「エンディングノート」の4回開催しました。むらカフェのチラシは毎回全戸配布し、対象になる関係者には電話や訪問で個別に連絡するなど、地道に周知してきました。最近では、毎回30人以上が集まる事業となっています。

「エンディングノート」に関しては、「終活・死」のマイナスイメージがあるのではないかと勝手に推測し、チラシ以外の周知はしませんでした。しかし、「夫が急に死亡し困ったから」「自分の子供に迷惑をかけたくない」などの理由で参加したとアンケートの感想がありました。36人の参加になり関心の高さを感じました。常に住民が何を求めているのかを把握し、それに柔軟に対応し開催していきたいと思えます。



## インフォメーション

ホットな話題をお届けします！

「注文をまちがえる！？料理店」寒河江のお知らせ

ほっこり料理店 HOKKORI RESTAURANT

主催者からのメッセージを転載させていただきます。

この度は、「ほっこり料理店」の活動にご賛同頂きありがとうございます。「ほっこり料理店」のコンセプトは認知症状を含む生きづらさの理解を広め、誰もが住みやすい地域社会の構築を目指すことです。そして、少しの寛容さを皆さまでもちより、誰もが発症する可能性があるからこそ、自分の事と考えられる心豊かな人が増えることを願っての取り組みとなります。

本来だったら2回目の「ほっこり料理店」がオープンとなる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で、このたびは開店見合わせとなってしまいました。本当に残念です。

でも、メッセージのように、少しの寛容さがある社会、素敵です。

ほっこり料理店実行委員会事務局 / NPO あじさい

サービス付き高齢者向け住宅つつじの家 0237-85-1326



## カフェ情報

カフェ運営者・スタッフの皆さんへ  
新型コロナウイルス感染防止配慮から日々、地域の皆さまに安心して利用いただくことを願い、快適な環境づくりに努めている中、これまでにない事態が発生し、感染防止対策等大変な努力をされていることと思います。

このような状況ですので、地域の運営者間の情報共有や国や県、市町村並びに関係機関から正しい情報を得て、少しでも不安のない環境で活動していきましょう。



発行元：山形県認知症相談・交流拠点さくらんぼカフェ 山形県認知症コールセンター(山形市 県小白川庁舎内)

電話・来所相談・カフェオープン 月曜～金曜日 昼12時～午後4時

TEL 023-687-0387 FAX 023-687-0397 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。